



AKITA

〔8月〕

県内経済

概況

県内経済は、一部に持ち直しの動きがみられるが、全体として厳しい状況が続いている

電子部品の生産は大幅に落ち込んでおり、機械金属、木材も低調に推移している。建設は、公共工事に減速感がみられるほか、住宅着工も弱い動きが続いている。個人消費は弱いながらも持ち直しの動きとなっている。雇用情勢は改善の動きが弱まっている。

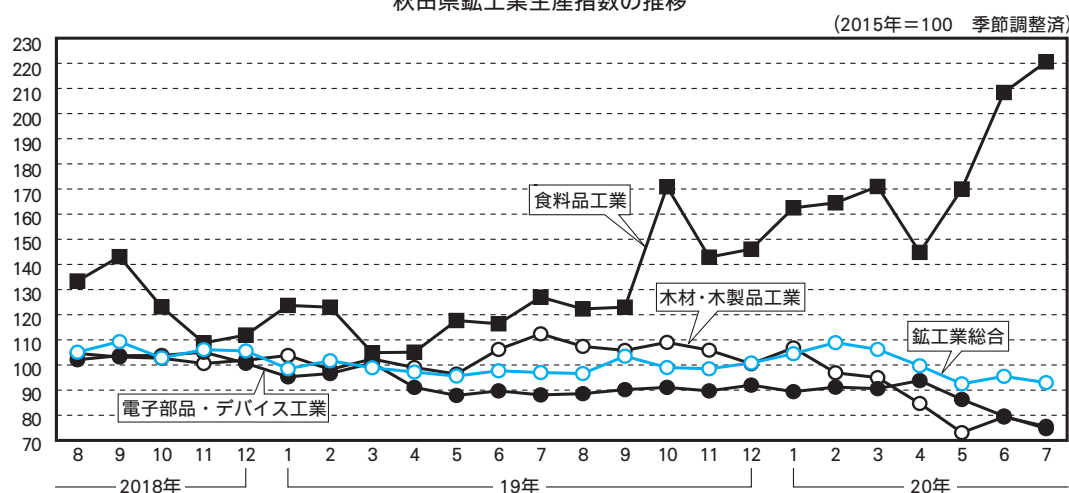
産業別の動向では、電子部品の生産額は、次世代通信規格「5G」向けが堅調に推移しているものの、車載向けの低迷が続き、4か月連続で前年を下回った。機械金属の生産額は、輸送機械で世界的な自動車販売の落ち込みから減産の動きが続き、7か月連続で前年を下回った。木材の生産量は、普通合板（7月）、製材品ともに5か月連続で前年を下回り、生産調整が続いている。公共工事請負額は、2か月連続で前年を下回り、年度累計も前年同期比マイナスに転じ、減速感がみられる。地元大手（12社）の建設受注額は、官公庁工事、民間工事と

もに振るわず、2か月連続で前年を下回った。住宅着工は、弱い動きが続いている。個人消費は、新車乗用車販売台数の低迷が続く一方、小売店販売額（7月）が3か月連続で前年を上回り、全体として弱いながらも持ち直しの動きとなっている。

有効求人倍率は前月比0.02ポイント低下し1.23倍となった。新規求人数は前年比15.2%減となり、16か月連続で減少した。事業主都合離職者数は前年比188.2%増となり、5か月連続で前年を上回った。

企業倒産件数は6件、負債総額は4億5,600万円であった。

秋田県鉱工業生産指数の推移



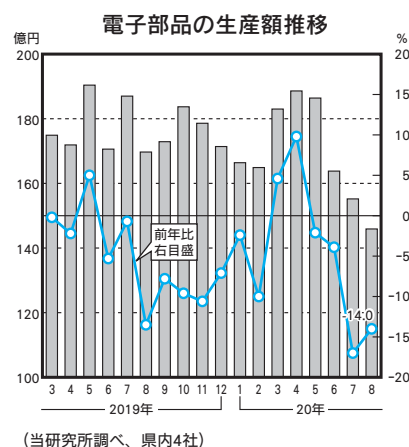
資料：秋田県企画振興部調査統計課「秋田県鉱工業生産指数月報」

電子部品

生産額、減少続く

8月の生産額は前年比14.0%減と4か月連続で前年実績を下回った。金額も、一部事業先で生産体制変更に伴う大幅減産が続いていた2013年3月以来の低い水準となった。

新機種の発表が相次ぐスマートフォンや通信機器などの「5G」関連の製品は堅調に推移しているものの、自動車向けは新型コロナウイルス感染拡大の影響等による世界的な販売低迷から脱しておらず、減少幅が拡大している。その他品目別では、主力のセラミック・コンデンサやコイルおよび半導体素子は減少が続いている。産業向け液晶パネルは下げ止まり感がみられるものの、依然厳しい状況が続いている。



機械金属

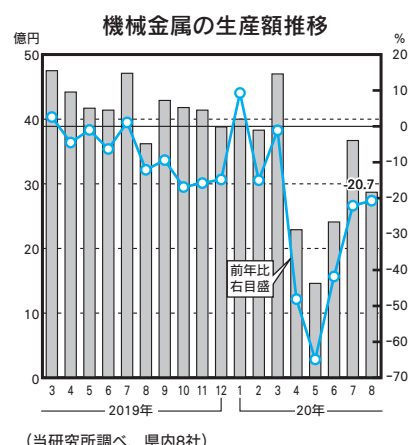
生産額、7か月連続で前年比減少

8月の生産額は前年比20.7%減となり、7か月連続で前年実績を下回った。減少幅は縮小傾向にあるものの、金額的には未だ低い水準にとどまっている。

ウエイトの高い輸送機械において、新型コロナウイルス感染拡大の影響等による販売低迷は底を打ったものの、回復には程遠く依然厳しい状況が続いている。

その他の民需関連では、建機部品は増勢が続いており、製鋼品も堅調に推移している一方、金型は減少が続いている。

公共工事関連では、橋梁・鉄骨は減少傾向にあり、水道部品も減少に歯止めがかかっていない。



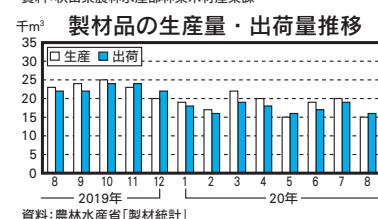
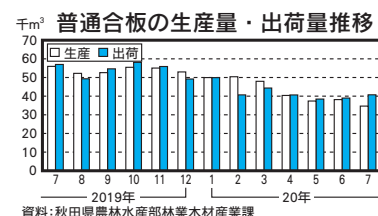
木材業

荷動き停滞、生産調整も続く

全国的に、新設住宅着工戸数の減少が続く中、新型コロナウイルス感染症の影響に7月の長雨、8月の酷暑など天候要因も加わり、需要回復が遅れ荷動きは停滞、メーカーも生産調整を継続している。本県でも同様に低調推移が続いている。

7月の普通合板は、生産量が前年比38.1%減と5か月連続で減少し、出荷量も同28.5%減と10か月連続で前年を下回った。在庫量は同23.2%増と6か月連続で前年比増加した。

8月の製材品は、生産量が前年比34.8%減と5か月連続で前年を下回り、出荷量も同27.3%減と7か月連続で減少した。在庫量は同13.6%増と14か月連続で前年を上回った。



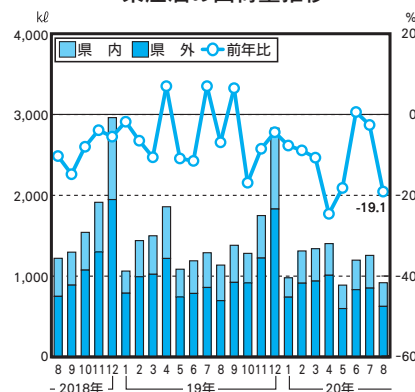
酒造業

出荷量、前年比減少幅が拡大

8月の清酒出荷量は、前年比19.1%減と2か月連続で前年を下回った。お盆の帰省自粛や夏祭りの中止などを受け需要が縮小し、前月よりも前年比減少幅が拡大した。出荷先別では、県内向けは同33.3%減、県外向けも同10.2%減となった。県外の主な出荷先別では、北海道が同10.4%減、東北5県は同8.2%減、東京も同15.7%減と、いずれも振るわなかった。

種類別では、普通酒は前年比17.1%減、特定名称酒は同21.1%減と、ともに前年比二桁減となった。特定名称酒の内訳では、吟醸酒が同13.7%減、純米酒は同25.3%減、本醸造酒も同35.2%減と、いずれも前年を大きく下回った。

県産酒の出荷量推移



資料：秋田県酒造組合

建設業

公共工事 国と市町村が減少し、2か月連続で前年比減少

8月の公共工事請負金額は、国と市町村が大幅に減少し、前年比39.3%減と2か月連続で前年を下回り、年度累計でも前年同期比6.1%減とマイナスに転じた。

一方、当研究所調査による地元大手12社の8月の新規受注額は、前年比50.7%減の2,187百万円と2か月連続で前年を下回った。うち官公庁工事は、前年同月が公立学校建築にかかる大口受注により増嵩した反動から、同43.2%減となった。また、民間工事は、土木、建築とも振るわず同82.5%減となった。これにより、年度累計でも前年同期比26.4%減と前月よりもマイナス幅が拡大した。

公共工事前払金保証実績

(単位：件、百万円、%)

区分	8月	前年比	4～8月	前年同期比
件数	285	1.4	1,503	△1.8
請負金額	12,946	△39.3	95,069	△6.1

資料：東日本建設業保証㈱秋田支店

地元大手企業12社受注額

(単位：百万円、%)

区分	8月	前年比	4～8月	前年同期比
官公庁	2,040	△43.2	9,367	△23.4
民間	147	△82.5	2,124	△37.3
合計	2,187	△50.7	11,491	△26.4

(当研究所調べ、県内12社)

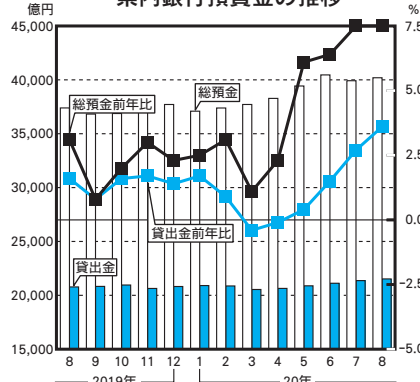
金融

預金、貸出金とも高い伸び続く

8月末の県内銀行の預金は、前月末比274億円増加し、前年比でも7.5%の増加となった。貸出金は、前月末比157億円増加し、前年比でも3.6%の増加と4か月連続で前年を上回った。新型コロナウイルス感染拡大の影響により資金需要が高まっているほか、一部企業で手元資金を厚くする動きがみられ、預金、貸出金とも高い伸びが続いている。

8月の倒産件数(負債総額1千万円以上)は6件(前年比1件増)、負債総額は4億5,600万円(同19.6%減)となった。負債総額は、倒産件数6件中5件が負債額5千万円未満の小口倒産であったため、前年同月との対比では減少した。

県内銀行預貸金の推移



資料：秋田県銀行協会

住宅着工

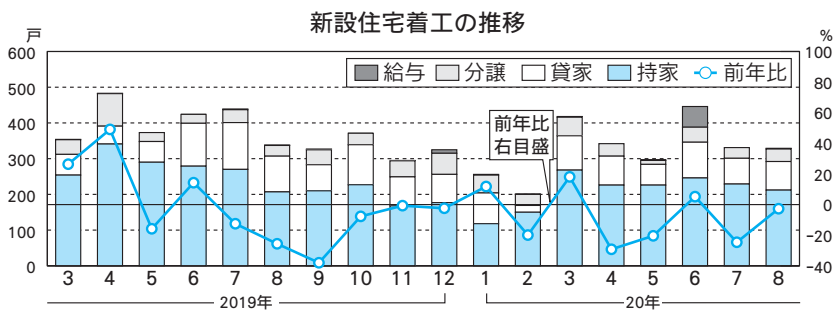
着工戸数、前年比減少幅が縮小

8月の県内新設住宅着工戸数は、329戸（前年比9戸減、2.7%減）と、2か月連続で前年を下回った。貸家は減少したものの、持家、分譲住宅、給与住宅が増加したため、前年比減少幅は前月に比べて縮小した。

利用関係別では、持家が212戸（前年比5戸増）、貸家が80戸（同20戸減）、分譲住宅35戸（同5戸増）、給与住宅2戸（同1戸増）となった。

持家は、5か月ぶりに前年を上回った。貸家は、秋田市や横手市などで民間の賃貸住宅が減少したほか、公営住宅も減少し、3か月連続で前年を下回った。分譲住宅は、2か月ぶりに前年を上回った。

地域別では、県北は持家と貸家の着工が増加し、前年を上回った。県央は持家と貸家、県南は貸家と分譲住宅の着工が各々減少し、前年を下回った。



住宅着工動向 (単位：戸、%)

区分	2020年8月	前年比	20年1～8月	前年比
県北	69	35.3	553	△3.7
県央	170	△3.4	1,433	△5.6
県南	90	△18.9	634	△20.7
合計	329	△2.7	2,620	△9.4

資料：秋田県建築住宅課

個人消費

弱いながらも持ち直しの動き

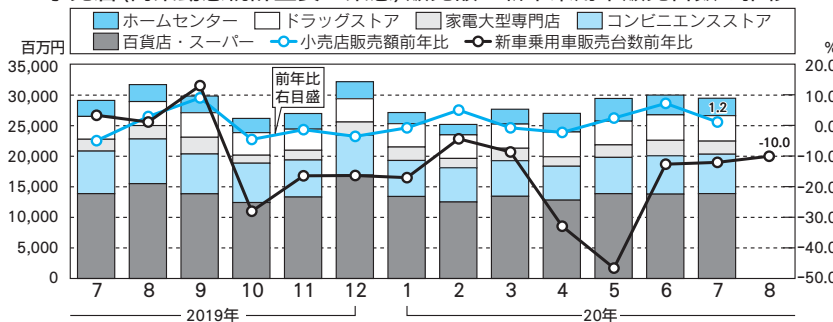
7月の小売店（商業動態統計主要6業態）販売額は、合計で前年比1.2%増となり、3か月連続で前年を上回った。コンビニエンスストア（同7.5%減）で減少したものの、ドラッグストア（同11.6%増）、家電大型専門店（同10.6%増）、ホームセンター（同8.7%増）などで増加した。

百貨店・スーパー販売額（全店）は、前

年比0.1%増となった。衣料品は、全般的に振るわず同15.8%減となったものの、飲食料品では、同1.9%増と4か月連続で前年を上回った。

8月の新車乗用車販売台数は、前年比10.0%減の2,409台となった。登録車、軽乗用車ともに減少し、11か月連続で前年を下回った。

小売店（商業動態統計主要6業態）販売額・新車乗用車販売台数の推移



8月の新車乗用車販売台数 (単位：台、%)

区分	販売台数	前年比
新車乗用車総販売台数	2,409	△10.0
登録車	1,377	△5.5
普通車	595	△13.3
小型車	724	2.7
輸入車	58	△12.1
軽乗用車	1,032	△15.4

資料：秋田県自動車販売店協会

県内個人消費関連指標（前年比）(単位：%)

区分	5月	6月	7月
①消費者物価指数	△0.6	△0.2	△0.2
②勤労者名目賃金	△2.5	△9.8	0.4

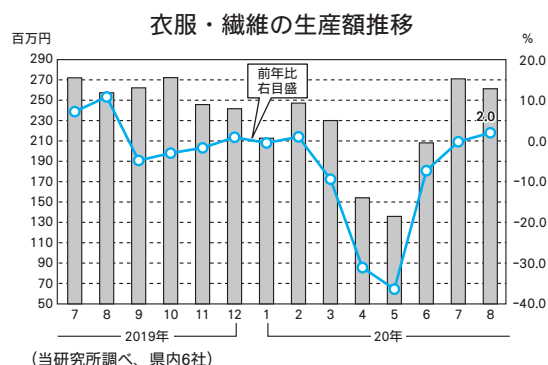
資料：①秋田県（総合指数、秋田市）
②秋田県（事業所規模5人以上）

衣服・繊維

生産額、6か月ぶりに前年比増加

8月の生産額は、前年比2.0%増となった。秋冬物の一般衣料は減少が続いているものの、医療・衛生関連商品が増加し、6か月ぶりに前年を上回った。

受注は、先行きの不透明さから、各アパレルメーカーとも定番品の動きが鈍く、2か月連続で前年を下回った。



雇 用

有効求人倍率、前月比 0.02 ポイント低下の 1.23 倍

8月の有効求人倍率は、前月比0.02ポイント低下の1.23倍となった。常用の内訳では、一般は前月比0.02ポイント低下の1.20倍、パートは同0.09ポイント上昇の1.18倍となった。求人が求職を上回って推移しているが、新型コロナウイルス感染症の影響から改善の動きが弱まっている。

新規求人数は前年比15.2%減となり、16か月連続で前年を下回った。産業別にみると、製造業は同27.0%減となった。「情報通信機械」で増加したものの、「電気機械器具」、「木材・木製品」、「食料品」などで二桁の減少率となった。非製造業は同14.0%減と

なった。「情報通信」、「建設」で増加したものの、「宿泊、飲食サービス」、「生活関連サービス、娯楽」などで二桁の減少率となった。

新規求職者数は前年比9.0%減と、11か月連続で前年を下回った。

事業主都合離職者数は、前年比188.2%増と大幅に増加し、5か月連続で前年を上回った。

地域別雇用状況（パートを含む常用）をみると、新規求人数は県北、県央、県南の全地域で減少した。有効求人倍率は県北が最も高く1.41倍、県央が1.21倍、県南が1.00倍となった。

業種別・新規求人内訳および新規求職者数（全数）

(単位：人、%)

区 分	2020年7月	前年比	8月	前年比
新規求人計	7,292	△19.3	7,019	△15.2
製造業	624	△28.1	572	△27.0
食料品	164	△8.9	98	△31.0
繊維	112	△29.1	116	△18.3
木材・木製品	32	△25.6	18	△48.6
電子部品・デバイス・電子回路	45	△57.9	72	△2.7
電気機械器具	22	△50.0	20	△55.6
情報通信機械	0	△100.0	13	62.9
非製造業	6,668	△18.4	6,447	△14.0
建設	1,059	△0.3	935	4.4
情報通信	66	57.1	43	26.5
運輸、郵便	352	△18.5	317	△17.7
卸売、小売	1,264	△22.3	1,254	△15.0
宿泊、飲食サービス	582	△31.1	585	△48.0
生活関連サービス、娯楽	199	△37.0	166	△35.2
医療、福祉	1,604	△9.3	1,508	△9.0
サービス	804	△28.7	625	△19.8
新規求職者数	3,433	△16.5	3,197	△9.0
有効求職者数	16,045	△1.4	15,850	1.9

資料：秋田労働局職業安定課
(注) 臨時・季節を含む。

有効求人倍率および事業主都合離職者数

(単位：倍、人、%)

区 分	2020年5月	6月	7月	8月
有効求人倍率	1.17	1.21	1.22	1.20
パートタイム	1.04	1.05	1.09	1.18
全数(季調済)	1.28	1.24	1.25	1.23
事業主都合離職者数	356	409	339	366
前年比	27.1	66.9	0.6	188.2

8月の地域別雇用状況（パートを含む常用）

(単位：人、%、倍、ポイント)

区 分	新規求人数	有効求人倍率
	前年比	前月比
県北	1,632 △10.4	1.41 0.01
県央	3,410 △10.1	1.21 0.04
県南	1,354 △26.7	1.00 0.00
合 計	6,396 △14.3	1.19 0.02

(注) 臨時・季節を除く。